

フューチャー・アースの推進と連携に関する委員会持続可能な発展のための教育と人材育成の推進分科会（第 24 期・第 3 回）議事要旨

日時：平成 30 年 10 月 24 日（木）13：00～15：00

会場：日本学術会議 5-A（2）会議室（5 階）

出席：窪川かおる、鈴木康弘、花木啓祐、日置光久、氷見山幸夫、山形俊男、山口しのぶ、
小金澤孝昭、小松輝久、福士謙介

オブザーバー：佐々木哲弥（杉並区立西田小学校・教諭）、碓合宗隆（玉川学園・教諭）、鈴木克徳（ESD 活動支援センター・副センター長）

配布資料：

資料 1：平成 29 年 5 月 15 日 日本学術会議公開ワークショップ Future Earth と学校教育：Co-design/Co-production をどう実践するか（II）ポスター

資料 2：平成 29 年 9 月 3 日 日本学術会議主催学術フォーラム中高生と考える「Future Earth と学校教育」ポスター

参考 1：委員名簿

参考 2：前回議事要旨

議題：

（1）分科会に関係する国際的・国内的動向について

- ・今年 7 月に発足した ISC（国際学術会議）による初めての大規模なイベントとして 9 月に福岡で開催された WSSF（世界社会科学フォーラム）2018 の位置づけや意義等について報告があった。
 - ・2020 年以降の ESD の活動に関するグローバルアクションプログラム（GAP）の後継の仕組み提案がユネスコから公開され、現在意見を募集中である。具体的内容は、ESD 活動支援センターwebsite（10 月 11 日付お知らせ）から見る事が出来る。
- ・名古屋大学に防災に関する公開センターができ、毎年 20 の高校から生徒が訪問している。また防災減災カレッジを進め、強靱化総合センターをつくり、市民との連携を進めている。モンゴルにおける防災、放送大学との連携も進めている。
- ・文科省卓越大学院プログラムに関しては、Future Earth が進めているような重要なテーマを扱ったものが見られなかった。
- ・ISC（国際学術連合）傘下の地球科学系学術連合体である GeoUnions はメンバーユニオンから SDGs の活動に関する情報を集め、マッピングを進めている。
- ・JICA の草の根支援@モンゴルについて、中学高校の教員代表 150 人が集まり研修を行った。SDGs に関する理解が高い。日本においてどのように SDGs が推進されているか質問があった。
- ・学術会議総会の中で SDGs に関して消極的な姿勢の論議があり懸念している。

- ・ Future Earth の活性化のためには既存の学術連合体や学会を活用するとよいと思う。
また、教育を軸にした連携もあり得ると思う。

(2) ワークショップの開催について

- ・ 地道な SDGs の活動と連携するのがよいのではないか。
- ・ 海洋教育のワークショップではないが、SDGs のコンテンツには海があり、それに関連して海洋教育の内容を入れることは可能ではないか。
- ・ 京大の森里海連環学教育研究ユニットは講座としては存続している。
- ・ 海洋教育は初等中等教育の中であまり広く浸透していない、身近に感じられないという印象があり、改善が望まれる。
- ・ 海に注目することでいろんな課題や問題が見えてくる。理科、社会科、家庭科など異なる教科の先生方の連携も期待できる。
- ・ ワークショップのタイトルは「Future Earth と学校教育：ESD/SDGs をどう実践するか」にする。
- ・ 1 月 22 日（火曜日）14 時～17 時に学術会議大会議室で実施する。当日、分科会（12:30～13:30）も行う予定。
- ・ 内容の詳細は ESD・SDGs 小委員会で検討する。分科会としては討議の時間を十分にとってほしい。
- ・ 提案書はこの分科会に引き続いて開催される ESD・SDGs 小委員会での細部の検討を踏まえて 10 月中にとりまとめ、分科会委員長より親委員会に提出する。

(3) シンポジウムの開催について

- ・ 公開シンポジウム（ないし学術フォーラム）を 7 月～9 月に学術会議講堂で開催する方向で準備を進めることとした。申請を 3 月の幹事会に間に合わせるには、次回の分科会で内容を詰める必要がある。
- ・ 第 2 回のワークショップを 5 月の連休の後を目処に頃）を行い、7～9 月にシンポジウムを開催する。3 月の幹事会に申請する必要がある。

(4) その他

議事要旨（案）の確認・修正は第 1 回分科会で定めた手順で行なうが、出席者全員からの確認の連絡はできれば 1 回で了としたい旨委員長から提案があり、了承した。

以上